

7. 甲状腺腫の X 線像とシンチとの関係

○兵頭 春夫 鴻地 尚 板東 一彦
弘津 武久 西山 健一 玉の井敏夫
(徳島大 放)

甲状腺腫の X 線像に石灰化像を認めることはよく知られており、組織像においても 50～100 μ 程度の石灰化粒が癌腫の際散見されることは以前より知られている。秋貞ら (1971) は軟 X 線を用いて砂粒腫の描写に成功し甲状腺癌の診断に役立てている。我々も昨年末より秋貞らの方法に準じて装置を改良し、現在迄に 89 症例に軟 X 線撮影を行い RI 診断と対比しているので、石灰化像、砂粒腫について検討を加え報告した。

89 症例中シンチ上 cold area, defect を認めたものは 37 例、石灰化像 14 例(粗大)、砂粒腫 2 例である。粗大石灰化像の例は癌腫 3 例、リーデル腺腫 1 例、慢性甲状腺炎 1 例、機能低下 1 例、機能亢進 4 例、良性腺腫 1 例、癌を疑つているが非手術例 3 例である。手術例で石灰化像を認めないが沢胞状腺癌が 1 例あつた。しかし砂粒腫を認めた 2 例は共に乳頭状腺癌であり粗大石灰化像が合併していた。砂粒腫は癌診断にアプローチする所見である。

8. 血液疾患における骨髓シンチグラム

○吉岡 博夫 長谷川 真 岩崎 一郎
(岡山大 2 内)

骨髓造血巣の分布を知ることは、血液疾患における造血の状態を確認するための 1 つの有用な手段である。我々はこれまで GAMMA camera と ^{99m}Tc -硫黄コロイドを用いて骨髓シンチグラムを作製し、骨髓造血巣の分布を研究し、その有用性を述べてきた。しかし成績の判定は描出画像の陰影濃度によるしかなく、その解釈が困難であり、また定量化にも問題があつた。そこで我々はその一解決法として computer を利用したのでその結果を報告する。

GAMMA camera に磁気テープ記憶装置を接続し、camera で撮影と同時に、一定時間テープに記憶させ、再生画像の適当な部に全視野の約 1 %にあたる ROI を設定し、counting を行う。

これを cpm に換算し、投与量と対比して各部分の放射能の分布比を求めた。

その結果をシンチグラム像に影響を及ぼすと思われる、congored 係数、末梢赤血球数、骨髓有核細胞数及び骨髓赤芽球%などと比較検討した。

9. $^{169}\text{Yb-citrate}$ による腫瘍シンチグラフィ

一特に X 線所見、剖検所見との対比

○平木 祥夫 田辺 正忠 玉井 豊里
山本 道夫
(岡山大 放)

$^{169}\text{Yb-citrate}$ は癌親和性を有し、その陽性描画に役立つとの久田らの報告がある。私共は、約 40 症例の悪性腫瘍患者に $^{169}\text{Yb-citrate}$ を投与し(約 300 μCi 静注)臨床的有用性を追試検討している。撮像は静注 1 日、3 日、5 日後にシンチスキャナーシンチカメラを用いて行ない、必要に応じコンピューターによる画像処理、定量的表示を行つてある。最近、 $^{169}\text{Yb-citrate}$ 検査悪性腫瘍患者で剖検した 2 症例について、そのシンチグラムと X 線所見を対比したところ、骨に X 線写真上では指摘できないような変化がシンチグラムで明らかな RI 陽性集積像として認められていた。 $^{169}\text{Yb-citrate}$ は原発腫瘍の診断のみでなく、同時に骨転移の早期検出が期待でき有用と思われる。

10. 脾臓シンチグラフィーによる脾疾患の鑑別

○田辺 正忠 玉井 豊理 平木 祥夫
山本 道夫
(岡山大 放)

シンチグラム所見により、慢性脾炎と脾癌の鑑別の問題点について検討する。